

# 屋外 コンクリート床 ガレージ ベランダ

コンクリート素地に塗る場合 / 旧塗膜上に塗る場合



**ガレージの床に最適**  
塗膜が硬く、摩擦に強い  
ホコリや劣化を防ぐ

**ベランダの床に最適**  
厚膜で簡易的な防水  
効果が得られる

**コンクリートの下塗りに**  
吸い込み止め、密着を良くするための  
必需品。水性・油性があります  
用途に合わせ使い分けましょう

コンクリート床用 水性 つやあり 簡易防水塗料 水性 半光沢 油性下塗剤 水性下塗剤

## スケジュールを決めましょう

約50㎡のガレージ(コンクリート未塗装の場合)

工程	使用材料	塗布量(㎡/㎡)	塗り重ね可能時間(夏期)	理想の人数と時間
1 目	下地処理	—	—	3人 60分
	マスキング	マスキングテープ	—	1人 15分
2 目	下塗り	油性下塗剤	3時間以上	2人 30分
	上塗り1回	コンクリート床用	0.14	2人 30分
	上塗り2回	コンクリート床用	0.14	2人 30分
あとしまつ(マスキングテープはがし等)				1人 10分

**作業人数の目安 3人**

**作業人数の目安とは**  
その作業の難易度、作業性に相当する理想的な人数の目安です。例えば2人で行う作業を3人で行った場合、より効率的に進められるといえます。

### <塗料と養生用品の必要量>

未塗装ガレージ床を下塗り1回、上塗り2回する場合

- コンクリート床用(ライトグレー) 7L:2缶
- 粗面用マスキングテープ 18m巻:2巻
- 油性下塗剤 7L:1缶
- 風化により傷んだ未塗装床面のため油性下塗剤を使用
- 防滑仕上げにする場合、防滑材が必要です(必要量は中面参照)

塗装面積  
約50㎡

### ■下塗剤の水性・油性の使い分け

#### 水性下塗剤

- 旧塗膜が残っている場合
- 室内など臭い気になる場所に

#### 油性下塗剤

- 塗る面の傷みが激しい場合
  - 下地に何も塗っていない場合
- 水性塗料の上塗りができます。  
溶剤臭があるため室内は適しません。

### ■<コンクリート床用>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
1.6L	5~7	約4
7L	20~30	12~18

### ■<簡易防水塗料>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
7L	9~13	5~8
14L	18~26	10~16

### ■<油性下塗剤>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
1L	5~8	約4
7L	38~57	約30

### ■<水性下塗剤>の標準塗り面積 (2回塗りの場合)

容量	㎡	タタミ(枚)
4L	28~46	17~28
7L	50~80	30~48
14L	100~160	60~96

## 使用する道具

買い忘れがないかチェックを! 塗装用具は作業する人数分用意しましょう。作業効率もあがります。

### 塗装用具

- ローラーバケ (水性用か万能用をお選びください)
- ハケ(本)
- つぎ柄
- かくはん棒
- バケツ・塗皿

ローラーバケは毛の短いタイプをお選びください

広い面を効率的に塗れます。仕上りもきれいです

ローラーバケに取り付ければ腰をかめずに効率よく作業できます

ローラーバケを使用する場合は塗り皿やバケツが必要です

### 養生

塗料のはみ出しや汚れを防ぐために使います。

- 粗面用マスキングテープ ( )巻き
- マスカー ( )巻き
- ポリシート ( 枚)

マスカーはテープとポリシートが一体となっており広範囲を保護できます

[新聞紙]

### 清掃・下地処理

清掃・下地処理に使用します。

- 補修用パテ
- デッキブラシ
- 雑巾・ウエス
- ワイヤブラシ
- ワイヤブラシ
- 手袋( 双)

# ガレージ床の塗装 コンクリート素地に塗る場合

## ① 清掃・下地処理(補修) 洗浄や補修等の下地処理は、塗装をする日の前日に行ってください。

新しいコンクリート面に塗る場合は、施工後4週間ほど経過し、表面が白くなってアルカリ分が弱くなってから塗って下さい。また風通しのよくない場所でも、アルカリ分が弱くなるまで塗装を待ちます。

**清掃** 塗る面のゴミ、砂、コケ等をデッキブラシなどで除去します。風化等により、もろくなっている場合には、ワイヤーブラシ等で除去し、デッキブラシで水洗い後充分乾燥させて下さい。

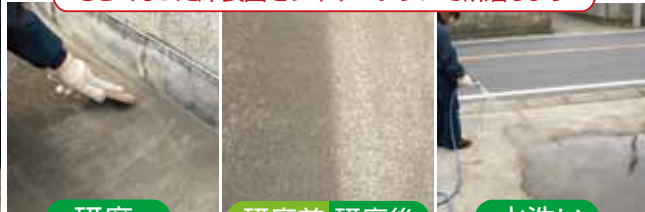


ワイヤーブラシ

**補修** ひび割れや穴などはセメントやエポキシ樹脂パテで埋めます。



もろくなった床表面をワイヤーブラシで研磨します



研磨

研磨前

研磨後

水洗い

## ② マスキング(養生) ~はみ出しや汚れを防ぐ為の処理~



塗りたくない部分や塗料が付着すると困る場所には必ずマスキングテープを貼ってください。マスキングテープは、粗面用を使用してください。

きれいに仕上げるために「きわ」はしっかり抑えてください。



「きわ」をしっかり抑えると境界線もきれいに仕上がります



「きわ」をしっかり抑えてないと塗料がはみ出してしまいます

## ③ 下塗り ⚠️ 必ず行ってください

下地を固める

付着性を高める

吸い込みを止める

耐久性を高める

油性下塗剤



水性下塗剤



通常の場合は、水性下塗剤で下塗りします。風化等により弱くなっている場合には油性下塗剤を使用して下さい。ただし旧塗膜が残っている場合、旧塗膜を侵す恐れがありますので油性下塗剤は使用できません。



つぎ柄を使うと効率的です。

伸縮タイプのつぎ柄なら、作業者の身長により調整できるので、より便利です。

上塗り可能時間 3時間(冬期は6時間)以上

## ④ 上塗り 塗装は塗装前日、当日、翌日も天気の良い暖かい日に行ってください。

塗料をかき混ぜる

塗料は様々な原料から成る混合物のため、一部の色の粉が沈んでいることがありますので、

中身をよくかき混ぜてください。

\*重量がありますので取扱いは充分注意してください。



フタを開ける前に容器を逆さにしてよく振ります。缶の天面を缶切りなどで切り開きます。(切り口で手を切らないように注意してください。)ヘラ等で缶の底まで全体を良くかき混ぜそのまますみず塗り皿等に移します。容器の底にドロツとした固まりがなくなるまでヘラなどで充分にかき混ぜてください。かき混ぜる作業が終わりましたら、使用する分を塗り皿や別の容器に移してご使用ください。



## 防滑材を混ぜる …防滑仕上げの場合のみ使用します

床面をすべりにくくするケイ砂材です



防滑材 300g



塗料をヘラなどでかき混ぜながら防滑材を徐々に入れます。

### 標準使用量

コンクリート床用7Lに対し  
1350g(防滑材300g・4.5本分)

詳しくは、防滑材商品裏面をご覧ください。

防滑材を混ぜて塗装する場合、塗り面積は2割程度減少します

## 通常の仕上げ

## 防滑仕上げ



細やかな凹凸仕上げとなり、防滑効果を発揮します。

## 塗料を塗る

### ローラーバケでは塗りにくい隅からハケで塗る

ハケはまず使う前に抜けやすい毛を取り除いてください。塗料はハケの根本まで付けるのではなく、毛先から2/3程度まで付け、塗り皿のフチで余分な塗料を落としてください。ローラーバケでは塗りにくい隅から先にスジカイバケで塗りましょう。厚塗りを避け、塗料をのばすように塗ってください。



### 広い面はローラーバケで塗る

最初に軽くローラーバケをゆっくり転がして塗料を配り、その後ムラにならないように縦方向(場合により横)にならして仕上げる方法が一般的です。塗料を付けすぎたり強く押しつけるとローラーバケの端から余分な塗料が出てライン状に溜まりが出来やすいので、付け過ぎに注意してゆっくり転がします。勢いよく転がすと塗料が飛び散ることがありますので、注意してください。



## 2回目を塗る

1回塗り後、3時間以上の間隔を開け、表面を触って乾燥を確かめた後、2回目を塗って下さい。



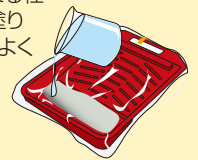
防滑仕上げの場合、1回目同様、防滑材を混ぜた塗料で2回目も塗ります。

### 上塗り可能時間

1回目と2回目の  
塗り重ね可能時間:3時間  
(冬期は6時間)以上

### ■粘度が高く、塗りにくい時は水でうすめましょう!

<水性コンクリート床用><簡易防水塗料>は、うすめなくても塗れる仕様になっていますが、塗りにくい時は水を加えてよくかき混ぜてください。



### [うすめる目安]

- ・塗料1.6Lに対し、水80ml以下
- ・塗料7Lに対し、水350ml以下

## ⑤ あとしまつ



塗り終わったらすぐマスキングテープを外します。乾燥した後ではがすと、マスキングテープと一緒に塗膜がめくれてしまう恐れがあります。塗膜がめくれてしまいそうな時は、境目に軽くカッターナイフで切り目を入れてからはがしてください。

マスキングテープをはがす際は汚れないように注意してください。



### ●用具の手入れ

ハケ・ローラーは、含んでいる塗料を新聞紙等で拭き取った後、水で洗ってください。洗い終わったらハケ・ローラーに含んでいる水をよく拭き取り、陰干ししてください。塗り皿も同様に新聞紙等で拭き取り、最後に水で洗ってください。

用具の手入れは乾燥する前に行ってください。乾燥するとハケの毛が固まって使用できなくなってしまいますのですぐに洗えない場合は水につけておきましょう。

# ベランダの塗装 旧塗膜上に塗る場合

ベランダ塗装の塗装工程はガレージ塗装と同じです。



**!** 古い塗膜が残っている面に塗装する場合の下塗りは水性下塗剤を使用します。油性下塗剤は下地を侵すので使用できません。



ひび割れや穴などはセメントやエポキシ樹脂パテで埋めます。

**!** 雨漏りしている場所、他の場所から漏水がある場合はきちんとした処理を行わないと塗料の膜では止まりません。専門業者にご相談ください。

**塗布量について** 簡易防水塗料は、タタミ1枚分の面積に対し1Lを使い切る位の量を目安に塗り広げず、塗料をたっぷり付ける様に心がけて塗装をしてください。

**!** **塗れない** ベランダ床には塗装できないものがあります！必ず下地をご確認ください！  
 強化コンクリート面(鉄粉入り強化コンクリート、着色強化コンクリート) 合成ゴム防水、FRP防水、ウレタン防水面、エポキシ面、プール、池等常に水がたまる場所、浴室の床、シリコン系、フッ素系、ウレタン系等の特殊防水処理を行った面、アスファルト防水、シート防水面、防水加工が施されている部分への上塗り、弾性塗膜のような柔らかい素材の上、自動車など重量物を置く場所

### コンクリート床用 ・ 簡易防水塗料の 使い分け

**硬い強靱な塗膜で劣化・摩耗に強い**

**車の走行が可能**

**ガレージに**  
つやあり  
コンクリート床用

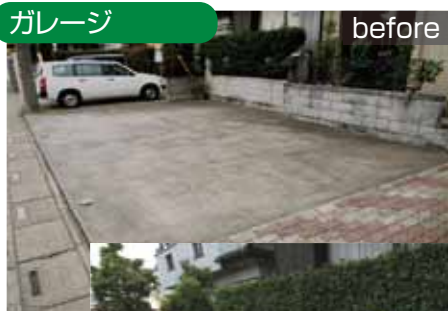
- ベランダ・テラス等の軽歩行面
- ガレージ・工場床

**柔軟性のある厚膜タイプでひび割れにも強い**

**ベランダに**  
半光沢  
簡易防水塗料

- ベランダ・テラス等の軽歩行面
- ガレージ・工場床は塗れません

## 完成(イメージ)



塗装後、歩行や物を置く場合は24時間以上乾燥させてからにしてください。